

## 【玉村町】

### 1人1台端末の利活用にかかる計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

群馬県では、新・群馬県総合計画において、「群馬の環境を生かした教育×デジタルを活用した新しい教育＝群馬ならではの新しい学び」の確立により、始動人（自分の頭で未来を考え、動き出し、生き抜く力を持つ人）の育成を目指している。また、第4期群馬県教育振興基本計画（群馬県教育ビジョン）では、「ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける『自律した学習者』の育成」を目指し、多様な他者と関わり合いながら自分事として学びを深めていく学習者像を掲げている。

玉村町では、玉村町教育振興基本計画において、学校教育で目指す児童生徒像として「自ら考え判断し、自ら行動できる児童生徒」を掲げ、『自立する力』と『共生する力』を育む教育活動の充実を図っている。

これらの計画を基に、児童生徒がICTを課題解決の手段の一つとして必要に応じて活用しながら主体的・対話的で深い学びを実現し、自らの資質・能力を伸ばしていく姿の具現化を図る。

#### 2. GIGA第1期の総括

文部科学省のGIGAスクール構想に基づき、それ以前から整備してきたWindowsタブレット端末に加え、令和2年度にChromebook 端末、充電保管庫、無線LAN、Google Workspace for Educationを整備し、小中学生の1人1台端末の環境を実現した。また、貸出用無線ルーターを用意し、家庭でインターネット環境が整っていない児童生徒も学校及び家庭で学習用端末の活用が進むようにした。さらに、全小学校でデジタルドリル「スマイルネクスト」を整備し、児童生徒1人1人が自分の状況に合わせて学習に取り組めるようにしたほか、授業中の操作支援を目的としたICT支援員の配置も行った。それに加え、学習用端末を活用した授業を参観する教職員研修会を実施したり、町教育研究所でICT活用の実践事例を蓄積したりするなどし、GIGA環境における授業改善の一助とした。

これらにより、授業において児童生徒の個別最適な学びや協働的な学びが効果的に行われる場面が増え、主体的・対話的で深い学びの一層の充実を実現することができた。

その一方、1人1台端末の整備から4年が経過し、継続的な使用による端末の故障が増加してきたことから、計画的なメンテナンスや端末更新を行っていく必要が生じている。また、Googleドライブのデータの整理・移行に関する児童生徒のスキルの育成、複雑になっている各種サービスID管理等も今後の課題として挙げられる。

#### 3. 1人1台端末の利活用方策

##### (1) 個別最適な学びと協働的な学びの充実

- ・児童生徒一人一人が自分の目的に合わせて学習を調整しながら学ぶ授業を推進し、その中で児童生徒自身が調べたり、考えを整理したり、表現したりするために1人1台端末を効果的に用いる場面を増やす。また、児童生徒が1人1台端末を用いて考えを共有し、自分の考えを広げたり確かにしたりする場面を増やす。
- ・児童生徒や教職員の1人1台端末の活用が促進されるよう、授業や特別活動を含めた学校生活全般でのICT利活用の実践事例の共有を進める。

## (2) 学びの保障

- ・ 様々な要因で教室で学ぶことができない児童生徒が、1人1台端末を用いてオンラインで授業に参加したり、県総合教育センターが実施している「つなぐん」に参加したりできるよう支援する。
- ・ 特別支援学級や日本語教室等に通う児童生徒が、デジタルドリル等を活用して自分の興味関心や学習状況に合わせた学びを進められるよう支援する。